

# 七条中学校だより10月21号

京都市立七条中学校  
令和8年10月30日  
発行:校長 林 秀雄

## 2050年の君たちへ最終回 未来は予測するものではなく、創るもの

「2050年の君たちへ」と題して、私はこれまで5回にわたり、皆さんが大人として活躍している未来の社会について考えてきました。人口が減る社会。外国につながる人々と共に生きる社会。AIが当たり前となる社会。仕事や働き方が大きく変わる社会。そして人生100年時代。それぞれのテーマについて、皆さんに問いかけてきました。

皆さんは、それぞれのテーマについてどんなことを考えたでしょうか。実は、これらの話を通して私が本当に伝えたいことがあります。それは、どんな未来になっても、自分らしく生きていける人になってほしい。ということです。

世の中には、「将来なくならない仕事は何ですか」「AIに負けない仕事は何ですか」という質問があふれています。しかし私は、その問いそのものがあまり重要ではないと思っています。なぜなら、未来は予測できないからです。皆さんが生まれた頃、今のように生成AIが文章を書き、絵を描き、音楽を作る時代を正確に想像できた人はほとんどいませんでした。これから先の20年で起こる変化も、きっと私たちの想像を超えるものになるでしょう。だから大切なのは、未来を当てることではありません。変化に対応できる自分を育てることです。私がそのために必要だと思う力は、五つあります。

一つ目は、「学び続ける力」です。

これからの社会では、一度学んだ知識だけで生きていくことはできません。新しい技術や新しい仕事が続々に生まれ、社会の仕組みも変わっていきます。だからこそ、大切なのは「知っていることの量」ではなく、「知らないことを学ぼうとする姿勢」です。皆さんには、分からないことをそのままにせず、自ら調べ、考え、学び続ける人になってほしいと思います。

二つ目は、「自分で考える力」です。

AIは多くの情報を集め、答えを示してくれます。しかし、「どんな社会にしたいのか」「何が本当の課題なのか」を考えるのは人間の役割です。正解のない問題に向き合い、自分なりの考えをもち、判断する力がこれまで以上に求められます。誰かの言葉をそのまま信じるのではなく、「本当にそうだろうか」と考える習慣を身につけてほしいと思います。

三つ目は、「多様な人と協力する力」です。

2050年の社会では、国籍や文化、価値観の異なる人々と共に学び、働くことが当たり前になります。また、年齢や職業の違う人たちと協力して課題を解決する場面も増えるでしょう。そのような時代には、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の話に耳を傾け、お互いを尊重することが大切になります。違いを認め合いながら力を合わせることでできる人こそが、未来の社会で信頼される人になるはずです。

四つ目は、「挑戦する力」です。

未来は変化の連続です。変化を恐れて立ち止まるのではなく、新しいことへ一歩踏み出す勇氣が必要になります。もちろん挑戦には失敗がつきものです。しかし、本当に大切なのは失敗しないことではありません。失敗から学び、もう一度挑戦することです。皆さんには、「失敗したから終わり」ではなく、「失敗したから成長できる」と考えられる人になってほしいと思います。

五つ目は、「人を思いやる力」です。

私は、この五つの中で最も大切な力かもしれないと思っています。どれだけAIが進歩しても、人の喜びや悲しみに寄り添うことはできません。困っている人に声をかけること、仲間を励ますこと、相手の立場に立って考えること。こうした優しさや思いやりは、人間だけがもつかけがえのない力です。技術が発達すればするほど、人を大切にする心の価値は高まっていくでしょう。

この五つの力は、本校が大切にしている学校教育の考え方と、とても深くつながっています。七条中学校の学校教育目的は、「豊かな人間性と未来社会の中でよりよく生きていける力の育成」です。そして学校教育目標として、「自律・探究・貢献」を掲げています。自ら考え、判断し、行動する「自律」。課題を見つけ、学び続ける「探究」。他者と協働し、社会に役立とうとする「貢献」。実は、先ほど述べた五つの力は、この三つの目標に集約されています。学び続ける力や自分で考える力は「探究」へ。多様な人と協力する力や人を思いやる力は「貢献」へ。挑戦する力は「自律」と深く結びついています。皆さんは日々の学校生活の中で、知らず知らずのうちに未来を生きる力を育てているのです。

そのために七条中学校では、「七条のプロセス」という学びの型を大切にしています。

①目標を立てる。②必要な知識を集める。③情報を整理する。④考え、判断する。⑤仲間と協働する。⑥行動する。⑦振り返り、次に生かす。

このサイクルを何度も繰り返すことで、人は成長していきます。大切なのは結果だけではありません。結果に至るまでの過程です。うまくいったかどうかだけでなく、どのように考え、どのように努力し、どのように仲間と関わったか。その積み重ねが皆さんを成長させるのです。

振り返ってみると、この五つの力は特別な場所で身につくものではありません。毎日の授業の中で。友達との対話の中で。部活動の中で。生徒会活動の中で。七中祭の体育の部や合唱の部の中で。皆さんはすでに未来を生きるための力を育てています。そして実は、この五つの力には共通する土台があります。それは、「自分を大切にするとともに、他者を大切にすること」です。これは七条中学校が目指す生徒像であ「人・学・和を大切にできる生徒」の姿そのものでもあります。自分に自信をもち、自分の可能性を信じること。そして同時に、周りの人の価値や違いを認めること。その両方がある初めて、人は学び続け、考え、協力し、挑戦し、思いやることができるのです。未来の社会がどのように変わろうとも、この土台は決して変わらないでしょう。

2050年、皆さんは38歳から40歳前後になっています。その頃の社会がどのようなになっているのか、誰にも正確には分かりません。しかし、私は一つだけ確信していることがあります。それは、未来を創るのは、その時代を生きる人たちだということです。2050年の社会を創るのは、今の大人ではありません。皆さんです。だからこそ、自分の可能性を信じてください。学び続けてください。挑戦し続けてください。そして、人とのつながりを大切にしてください。

最後に、このシリーズの締めくくりとして、皆さんに一つだけ問いを贈ります。「2050年、あなたはどんな社会を創りたいですか。」未来を待つ人ではなく、未来を創る人になってください。そのことを、私は心から願っています。

## 本の世界が広げるもの

先日公表された学校読書調査によると、1か月に本を1冊も読まない子どもの割合（不読率）は、小学生で25年ぶりに1割を超え、中学生でも約4人に1人が本を読まない状況にあることが報告されました。スマートフォンやタブレットが身近になり、さまざまな情報を手軽に得られる時代となりましたが、その一方で「活字離れ」が進んでいることが課題となっています。読書には、知識を得るだけでなく、自分とは異なる考え方や生き方に触れたり、登場人物の気持ちを想像したりすることで、人を理解する力や豊かな感性を育てる働きがあります。また、読書によって身に付く語彙力や読解力は、国語だけでなく、すべての教科の学習を支える大切な土台となります。

本校では、毎朝始業前の10分間を朝読書の時間として取り組んでいます。わずか10分と思うかもしれませんが、毎日続けることで大きな時間となり、読書習慣を身に付ける貴重な機会となります。この時間は、心を落ち着かせて一日をスタートさせるとともに、本と向き合い、自分自身を成長させる時間でもあります。読書習慣は一朝一夕に身に付くものではありません。だからこそ、朝読書の10分間を大切に、静かに本を開き、読書に集中する積み重ねを続けてほしいと思います。読書は人をすぐに変えるものではありません。しかし、続けることで確実に自分の世界を広げ、考える力や学ぶ力を育ててくれます。ぜひ、本との出会いを大切に、自分自身の成長につなげてほしいと思います。

## 11月からは標準服登校です

夏季期間中は、体操服登校と標準服登校の選択制としていましたが、11月からは標準服での登校となります。朝夕は気温が下がり、季節も秋から冬へと移り変わっていきます。標準服の着用について再度確認し、準備をしておいてください。

なお、ボタンの有無等、服装の乱れなどにも気を配り、身だしなみを整えて登校しましょう。一人ひとりがルールを守り、気持ちのよい学校生活を送れるよう心掛けてください。注意してください。